

寒冷地形談話会通信

91年第2号 91/07/10発行

事務局／〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大・理・地理院生室 0426-77-1111 (内3836)

1. 91年度第2回例会の報告

7月6日、15:00より第2回例会が東京都立大学にて開催され次の発表が行なわれました。参加者は16名。 【演旨とりまとめ：苅谷】

▽青木賢人（学芸大・学）「木曽駒ヶ岳の地形」

均質な花崗岩から構成される木曽駒ヶ岳とその周辺では、最終氷期中ないしはそれ以降に形成されたと考えられる様々な氷食・周氷河・変動地形を見ることができる。氷食地形については中御所谷や黒川谷を中心に詳しい調査がなされており、カールやモレーンの存在が報告されてきた（たとえば、小野・清水、1982；柳町、1983）。氷河前進期は小林ほか（1957）、五百沢（1963、1979）や柳町（1983）などによって議論されており、最終氷期中に3回的前進があったと考えられるようになったが詳しい対比にはなお問題が残されている。いっぽう主稜線西側を中心にハイマツに覆われた化石周氷河性平滑斜面が広がっているが、現在は開析を受け縮小の途上にある。地形の切りあいなどからみて、こうした斜面の多くは最終氷期後半の亜氷期に形成されたと思われるが、ネオグラシエーション期に形成された構造土（小泉・関、1988）も報告されており今後の検討が必要である。そのほか最近数万年間に活動した線状凹地も確認されている（柳町、1982）。〔演者は非対称山稜の構成要素として対置・議論されやすかった氷食地形と化石周氷河地形を同一の流域内でとらえることにより木曽駒ヶ岳周辺の周氷河斜面の発達史を編んでゆく（卒業研究）という。〕

▽中新田育子（学芸大・院）「中ア・木曽駒ヶ岳周辺の高山植生」

木曽駒ヶ岳では標高1,600m前後より亜高山針葉樹林帯（コメツガ、シラビソ）となり森林限界は2,600mあたりに位置する。この高度帯の雪崩斜面ではダケカンバ、ミヤマハンノキなどが優占するようになる。これ以上はハイマツや高山植物群落のみられるようになるが、それらは微気候条件や地形に応じた棲みわけをしており、いわゆる「モザイク状の景観」（小泉、1974）が展開するようになる。山頂（2,956m）周辺の高山植生分布は小泉（1974）や中新田（1990、1991）などによって調べられているが、一般には微気候（風衝の度合・積雪深・消雪期）・微地形に応じ、大きくみて次の4つの植物群落に区分できる。すなわち、1)ハイマツ群落、2)雪田植物群落、3)高山風衝地植物群落、4)無植生地である。これとは別に、近年では交通網の整備にともなって登山者数が急増しており、融雪水・雨水の集中による登山道の急速な侵食やそれに起因する植生破壊が深刻化していることも見のがせない。

▽原田曉之（明治大・院）「越後山脈における筋状地形」

世界有数の多雪山地である越後山脈とその周辺では、雪の直接的・間接的作用を受けて形成されたとと思われる特有な地形をみいだすことができる。アバランチシュート（下川、1980）はその典型であるが、最近になって「幅2-4m、深さ2-3mの半円ないしU字形の断面；底部における基盤岩の露出；尾根直下から谷底付近まで直線的に達し縦断面はやや凹型かつ急」といった特徴をもつ「筋状地形」（関口ほか、1987）が報告されるようになった。この地形の発現する斜面の9割で雪崩が発生することから、その形成には雪崩が関与するという見方があるものの、春先の観察では融雪水の流下が認められ必ずしも雪崩だけに成因を結びつけることは困難だろう。また個々の筋状地形について形態や内部の堆積物（土壌）などは明らかにされておらず、その記載も重要である。そこで演者は越後駒ヶ岳や巻機山周辺に実験斜面を設定し、越冬期～融雪期にかけて雪の状態を詳しく観察するとともに器具を用いた営力の推定を試みた。その結果、筋状地形は平面・縦断面・横断面やその他の特徴から3つに分類できることが明らかになった。また融雪期には残雪グライドがしばしば認められることから、その形成には雪崩、融雪水とグライドが競合して関わっているとの見通しをえた。本研究は演者の修士論文として、今夏以降も継続される。いずれにせよ、わが国における多雪山地の地形研究は絶対的に不足しており、今後の蓄積・発展が期待されよう。

2. 「夏の学校」のおしらせ

今年度の夏の学校は木曽駒ヶ岳とその周辺で行ないます。案内は中新田育子さん・青木賢人さん（学芸大）にお願いいたします。開催要領は以下の通りです。なお、本件についてのお知らせは以後いたしませんので、参加される方はこの要領を熟読し各自で準備なされるようお願いいたします。

- ・案内：中新田育子（学芸大・院）・青木賢人（学芸大・学）
- ・内容：「木曽駒ヶ岳の水河・周水河地形と高山植物」
本号の発表要旨にあります内容のほか、案内者の研究テーマ（中新田さん：ハイマツの球果生産、青木さん：化石周水河斜面の編年）についてお話しいただく予定です。
また環境保全についての話題提供も予定しております
- ・日程：1991年8月8日（木）～9日（金） 1泊2日
- ・集合：8月8日 午前10時、木曽駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅（厳守）
- ・解散：8月9日 昼食まえ 木曽駒ヶ岳頂上山荘付近にて
- ・宿泊：原則としてテント持参がのぞましい（幕営は頂上山荘前で可能）。持参できない場合は稜線部の山小屋（頂上山荘など4軒）に宿泊するかテント持参者をご相談下さい。
小屋泊まりの場合は時節がら予約されることをお奨めします。
- ・食事：各自で日数分および非常食を用意してください。
- ・装備：一般登山装備に加え、高山植物群落の観察も予定しているので底の軟らかい靴（トレッキング・シューズないし地下タビ）の持参を希望します。植生の踏みつけを最小限にする配慮からです。
- ・その他：①国有林入林許可を駒ヶ根営林署に申請します。
②不測の事態にそなえ傷害保険（死亡時¥1,000万；入院¥4,500/日；通院¥3,000/日。掛け捨てで¥500前後の予定）に加入していただきます。代金は当日徴収します。

したがって、参加希望者はハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ、7月25日までに事務局までお送り下さい。

到着分について事務手続きを代行します（飛び入り参加も歓迎しますが、万一の場合当会として責任を負いかねますので是非ともご協力ください）。

- ・問合せ：事務局 荻谷愛彦（0426-77-1111；内3836；9:00-21:00）
[案内者へのお問い合わせはご遠慮ください]

3. その他

(1) 上高地自然史研究会7月集会および現地巡検のお知らせ

- ①集会は・・・
7月20日（土）、15:00～、東京大学理学部地理学教室にて
梅本 享（明治大）「山岳盆地の気候観測～気候コロキウム凹地研究会の北八ヶ岳
稲子凹地観測と上高地でやりたいこと～」
佐藤大樹（東京農工大・研）「溪流と菌類」
- ②巡検は・・・
8月26日～28日、上高地周辺にて
岩田修二（三重大）「上高地における現在の地形変化と災害危険度」
小林 詢（信州大）「上高地の開発と歴史」
桜井善雄（信州大）「上高地および周辺山岳地域の利用と水汚染」
8月26日 上高地小梨平のビジターセンター前集合（12時）→大正池や田代池→小梨平（泊）
27日 小梨平→明神池→徳沢園（泊）
28日 徳沢園→横尾（12時に解散）

お問い合わせは 岩船昌起（東北大・地理・院；022-222-1800；内3462）

(2) 6th International Symposium on Antarctic Earth Science のお知らせ

1991年9月9日～13日、埼玉県嵐山町 国立婦人教育会館にて（東武東上線武蔵嵐山駅下車）。プログラムは次のとおり。

- ★Crustal evolution of Antarctica as part of Gondwana Land
- ★Structure and evolution of crust and upper mantle in the southern high latitudes in relation to Gondwana breakup
- ★Cenozoic tectonics and Antarctic glacial history
- ★Geophysical exploration studies and techniques in Antarctica

国立極地研究所 東京都板橋区加賀1-9-10

(3) 「小氷期の気候」国際シンポジウム のお知らせ

1991年9月25～28日、東京都立大学国際交流会館にて（京王線南大沢駅下車）。プログラムは次のとおり。

- ★生物学的手法（年輪分析を含む）による小氷期の気候復元
- ★雪氷に記録された小氷期の気候変動
- ★古文書・資料にもとづく小氷期の気候復元
- ★小氷期と近年の気候変動
- ★小氷期と気候のメカニズム－火山活動と太陽活動－

使用言語は英語で通訳なし。参加費は全てのセッション・レセプション参加費や資料代込みで、一般¥20,000、学生¥14,000。

問い合わせ：〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大・理・地理
「小氷期の気候」国際シンポジウム事務局

(4) その他

①今年度会費（¥1,500）未納の方は至急お支払いをお願いします。

東京0-171342 寒冷地形談話会

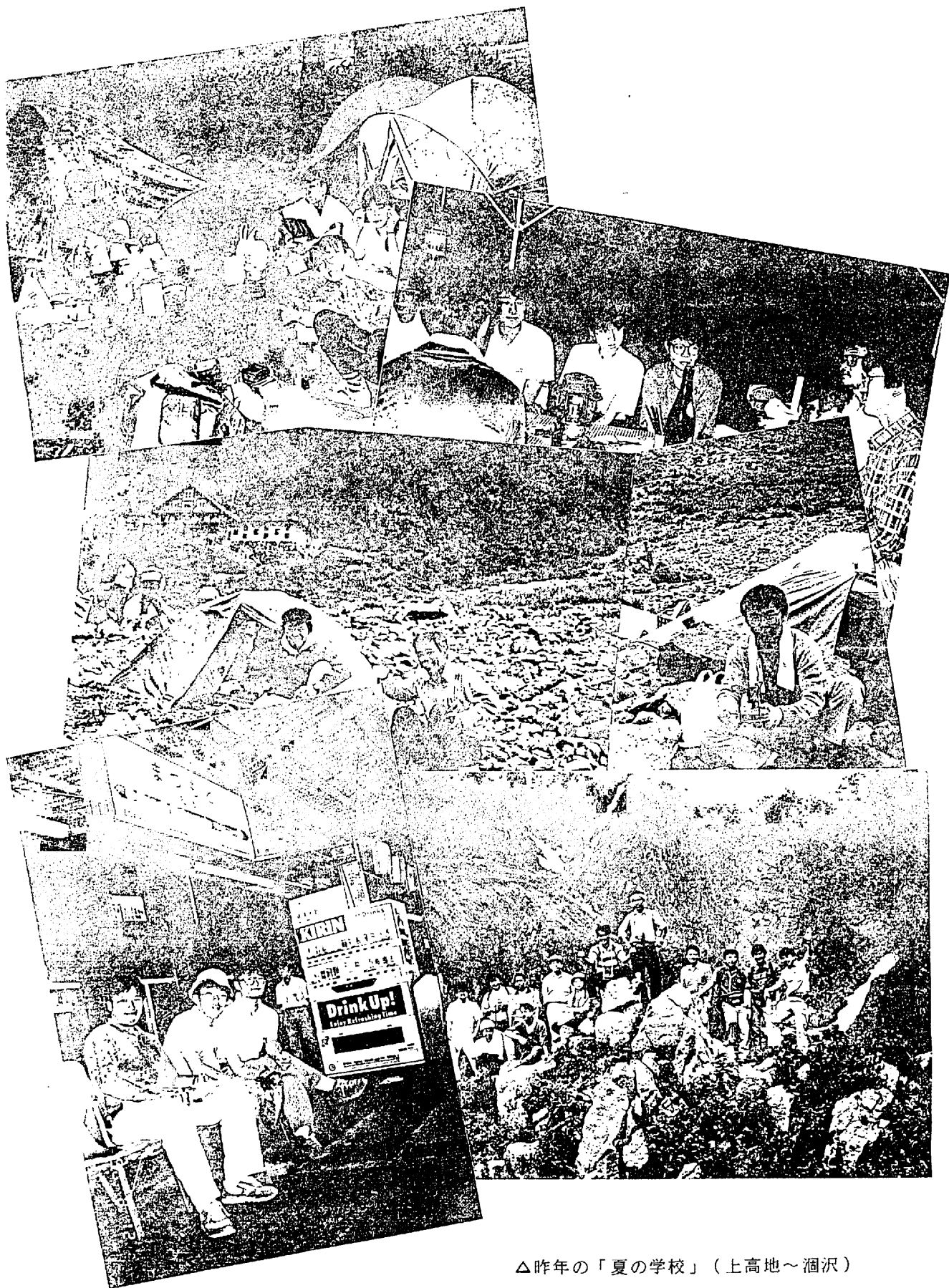
②今年度（4-7月）新入会員

・小林政能（千葉大・院）

・山田ひかる（明治大・学）

③8月・9月例会はお休みします。

④高山に極地に野外調査の季節がやってきました。みなさんケガに気を付けて頑張りましょう。最新情報や新発見のニュースがありましたら事務局までご投稿ください。また、発表の申込みもお待ちしています。



△昨年の「夏の学校」（上高地～涸沢）